

# 市 勢

## 1 郷土のありさま

### (1) 小 史

高槻（地名のおこりは「高月」）の名が史上に現れたのは、鎌倉時代から南北朝時代の頃である。縄文・弥生の昔から連綿と営まれてきたこの地の人々の暮らしが、この時高槻の集落として実を結んだ。

南北朝期（14世紀中葉）には足利尊氏配下の入江左近将監が城館を設け、戦国時代には、キリシタン大名の高山右近が高槻城主となって、日本のキリシタン史上に輝く足跡を残した。

江戸時代に入り、慶安2年（1649）に永井直清が高槻城に封ぜられて以後、幕末までに永井氏の領地として発達したが、永井氏は特に土木・治水に意を注ぎ、城下町も発展した。明治2年6月、版籍奉還で最後の藩主永井直諒は藩知事になったが、明治4年7月に廃藩、同11月、府県改廃によって高槻県は大阪府に編入され、明治7年には城郭も破却された。

明治22年4月1日、町村制の施行により島上郡高槻村、上田部村を合併して高槻村となり、同31年10月14日、近隣の村に先がけて町制が施行され、高槻町となった。

昭和6年1月1日、三島郡高槻町・芥川町・清水村・磐手村及び大冠村の5町村が合併して新しい高槻町が成立した。さらに、昭和9年9月1日には如是村を合併、人口の増加に加えて町勢はますます拡大し、昭和18年1月1日大阪府内9番目の市として市制（人口約3万1,600人、市域64.3km<sup>2</sup>）を施行した。そして、昭和23年1月1日には阿武野村、昭和25年1月1日には五領村を合併し、その後、工場の誘致、住宅等の建設により、ようやく田園都市から産業都市への発展のきざしをみせた。市はその後この基盤のうえに、町村合併促進法に基づき昭和30年4月3日には三箇牧村を、昭和31年9月30日には富田町を合併し、ついで昭和33年4月1日、京都府南桑田郡榎田村を合併編入するとともに、市営バス（昭和29年2月）を持った新都市としての姿を整えるに至った。

市では昭和35年頃から人口が急増し、特に46年には年間3万1,800人も増加をみた。これに伴い学校建設を中心とする公共施設の整備・拡充など行政需要も増大し、財政は未曾有の危機に陥った。その後、自主再建により赤字を解消しつつ、国鉄（現JR）高槻南駅前市街地再開発などの都市の基礎となる骨組づくりに取り組んできた。

平成15年4月1日には、中核市に移行した。そして、人口減少や少子高齢化の進行、大規模災害への対策や地球環境問題の深刻化、高度情報化社会の進展など、様々な課題を克服し、持続的な成長を次代につなげていくため、まちづくりの目標となる8つの将来の都市像を掲げた第6次高槻市総合計画を令和3年2月に策定し、「輝く未来を創造する 関西の中央都市 高槻」をまちづくりの合言葉に、市民・事業者等とともに、これらの都市像の実現に向け、まちづくりを進めている。

### (2) 地 勢

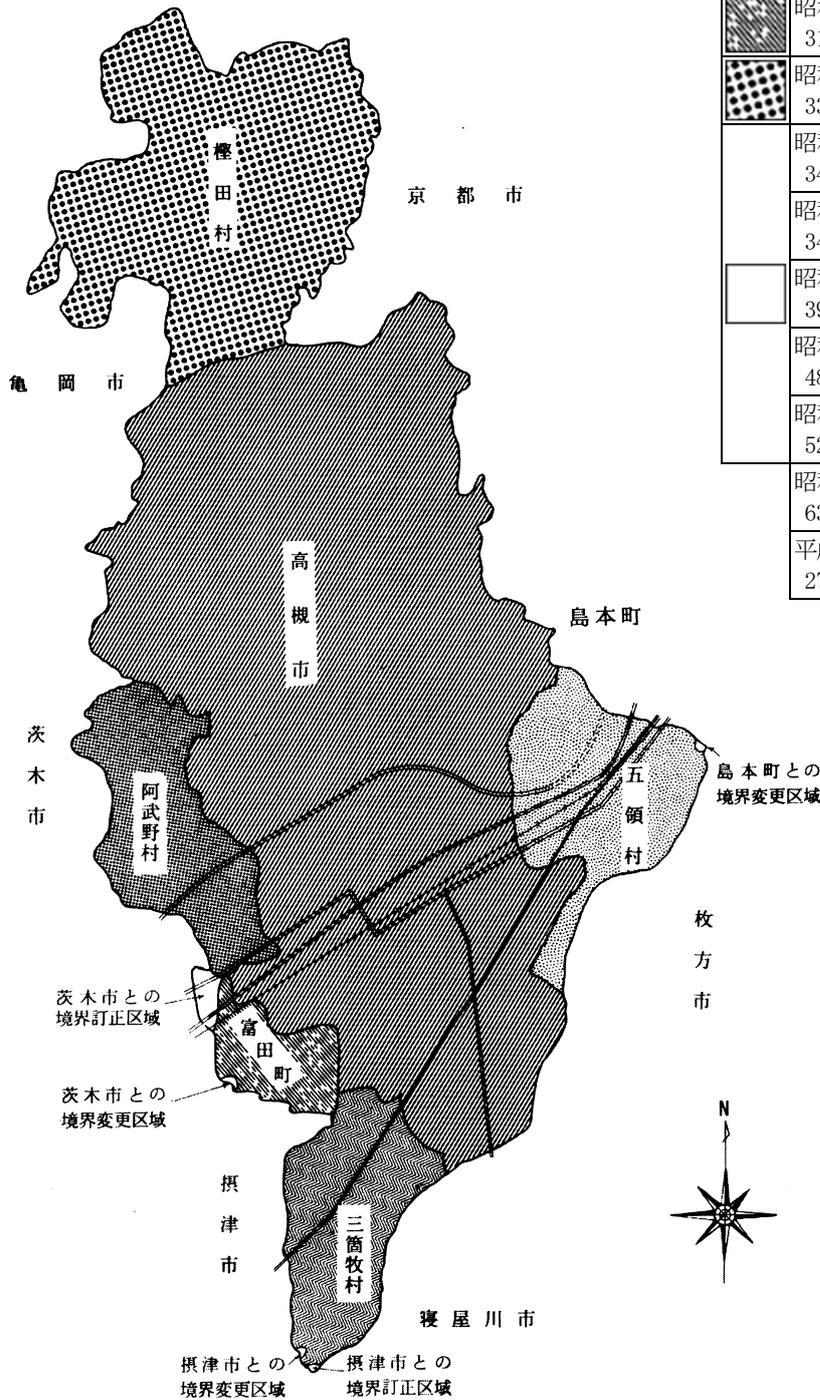
本市は、京都市と大阪市のほぼ中間に当たり、大阪府の東北部に位置している。北は北摂山地に連なる山並みと丘陵、南は山間から流れ出る芥川・桧尾川などによって形成された平野が広がり、琵琶湖から大阪湾に流れる淀川が市域の南の境になっている。

市街地を南北に二分してJR東海道本線と阪急電鉄京都線が並走し、更に、南部は東海道新幹線が、北部は丘陵地を名神高速道路、山間部を新名神高速道路が高槻ジャンクション・インターチェンジを介し、東西に横断している。

## 2 市域の変遷

年 月 日	種 別	面 積 (k m <sup>2</sup> )
明治22年 4月 1日	町村制施行により、大阪府島上郡高槻村、同芥川村、同清水村、同磐手村、同大冠村、同如是村、同阿武野村、同五領村、同三箇牧村、同富田村、京都府南桑田郡檜田村が成立	
明治29年 4月 1日	島上郡と島下郡が合併し、三島郡となる	
明治31年10月14日	高槻村は町制を施行し、高槻町となる	
大正14年11月 1日	富田村は町制を施行し、富田町となる	
昭和 4年 1月 1日	芥川村は町制を施行し、芥川町となる	
昭和 6年 1月 1日	高槻町に芥川町、清水村、磐手村、大冠村が合併	57.067
昭和 9年 9月 1日	高槻町に如是村が合併	64.306
昭和18年 1月 1日	市制施行、高槻市となる	64.306
昭和23年 1月 1日	三島郡阿武野村合併	
昭和25年11月 1日	三島郡五領村合併	
昭和30年 4月 3日	三島郡三箇牧村合併	
昭和30年10月 1日	高槻市公表面積	84.01
昭和31年 9月30日	三島郡富田町合併	86.83
昭和33年 4月 1日	京都府南桑田郡檜田村合併	104.51
昭和34年 4月 1日	茨木市と境界変更	104.51
昭和34年10月 1日	茨木市と境界訂正	104.84
昭和39年10年 1日	摂津市と境界訂正	104.95
昭和48年 4月 1日	島本町と境界変更	104.95
昭和52年 4月 1日	摂津市と境界変更	104.95
昭和63年10月 1日	建設省国土地理院の改測による修正	105.31
平成27年 4月 1日	国土交通省国土地理院の改測による修正	105.29

# 市域の変遷図



昭和	市制施行	面積 k m <sup>2</sup>
18. 1. 1	市制施行	64. 30
23. 1. 1	阿武野村 合併	...
25. 11. 1	五領村 合併	...
30. 4. 3	三箇牧村 合併	...
31. 9. 30	富田町 合併	86. 83
33. 4. 1	櫻田村 合併	104. 51
昭和 34. 4. 1	茨木市との 境界変更	104. 51
昭和 34. 10. 1	茨木市との 境界訂正	104. 84
昭和 39. 10. 1	摂津市との 境界訂正	104. 95
昭和 48. 4. 1	島本町との 境界変更	104. 95
昭和 52. 4. 1	摂津市との 境界変更	104. 95
昭和 63. 10. 1	国土地理院 改測による修正	105. 31
平成 27. 4. 1	国土地理院 改測による修正	105. 29

### 3 人 口

#### (1) 人口の推移

年次	世帯数	人 口			増加率	人口密度 (1K m <sup>2</sup> 当たり)
		男	女	計		
昭和 5 年	世帯 1,262	人 3,229	人 2,751	人 5,980	% 30.4	人 —
昭和10年	5,589	13,911	14,384	28,295	373.2	—
昭和15年	6,437	15,345	15,666	31,011	9.6	—
昭和22年	8,583	18,526	19,188	37,714	21.6	587
昭和25年	9,390	21,530	21,791	43,321	14.9	—
昭和30年	11,546	26,915	27,113	54,028	24.7	—
昭和35年	18,011	39,647	39,396	79,043	46.3	754
昭和40年	32,871	67,534	63,201	130,735	65.4	1,246
昭和45年	63,714	117,201	113,928	231,129	76.8	2,202
昭和50年	94,029	165,877	164,693	330,570	43.0	3,150
昭和55年	104,068	169,695	171,025	340,720	3.1	3,246
昭和60年	109,135	173,095	175,689	348,784	2.4	3,323
平成 2 年	118,775	177,641	182,226	359,867	3.2	3,417
平成 7 年	126,958	178,393	183,877	362,270	0.7	3,440
平成12年	133,232	174,980	182,458	357,438	△1.3	3,394
平成17年	137,755	170,102	181,724	351,826	△1.6	3,341
平成22年	145,426	171,927	185,432	357,359	1.6	3,393
平成27年	148,048	168,057	183,772	351,829	△1.5	3,342
令和 2 年	152,869	168,081	184,617	352,698	0.2	3,350

※ 本表は、国勢調査の結果である。

#### (2) 年齢別階層別（5歳階級）人口

令和6年3月31現在（単位：人）

年齢階層	男	女	計	年齢階層	男	女	計
0～4歳	6,152	5,732	11,884	55～59歳	11,800	12,152	23,952
5～9歳	7,175	6,839	14,014	60～64歳	9,218	9,829	19,047
10～14歳	7,515	7,430	14,945	65～69歳	8,001	9,276	17,277
15～19歳	8,410	7,915	16,325	70～74歳	9,842	12,398	22,240
20～24歳	8,632	8,674	17,306	75～79歳	9,962	13,399	23,361
25～29歳	7,872	8,266	16,138	80～84歳	8,544	11,599	20,143
30～34歳	8,032	8,281	16,313	85～89歳	4,708	7,064	11,772
35～39歳	9,226	9,235	18,461	90～94歳	1,610	3,614	5,224
40～44歳	10,254	10,448	20,702	95～99歳	308	1,121	1,429
45～49歳	12,673	13,206	25,879	100歳以上	14	187	201
50～54歳	14,694	14,882	29,576	合 計	164,642	181,547	346,189

### (3) 産業別人口

区 分		令和2年国勢調査		平成27年国勢調査		平成22年国勢調査	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
第一次産業	農 業	717	0.49	755	0.50	795	0.52
	林 業	26	0.02	23	0.02	39	0.03
	漁 業	5	0.00	2	0.00	1	0.00
	計	748	0.51	780	0.52	835	0.54
第二次産業	鉱業, 採石業, 砂利採取業	10	0.01	21	0.01	32	0.02
	建設業	8,835	6.02	9,120	6.07	9,859	6.43
	製造業	21,288	14.50	23,263	15.49	24,490	15.97
	計	30,133	20.52	32,404	21.57	34,381	22.42
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	625	0.43	698	0.46	731	0.48
	情報通信業	4,765	3.25	4,475	2.98	4,551	2.97
	運輸業, 郵便業	10,185	6.94	9,499	6.32	10,155	6.62
	卸売業, 小売業	23,962	16.32	24,542	16.34	26,851	17.51
	金融業, 保険業	3,875	2.64	4,340	2.89	4,668	3.04
	不動産業, 物品賃貸業	4,063	2.77	3,789	2.52	3,661	2.39
	学術研究, 専門・技術サービス業	5,701	3.88	5,113	3.40	5,341	3.48
	宿泊業, 飲食サービス業	7,015	4.78	7,321	4.87	7,470	4.87
	生活関連サービス業, 娯楽業	4,606	3.14	4,713	3.14	5,131	3.35
	教育, 学習支援業	8,446	5.75	7,913	5.27	7,723	5.04
	医療, 福祉	22,364	15.23	20,330	13.53	17,958	11.71
	複合サービス事業	728	0.50	757	0.50	534	0.35
	サービス業(他に分類されないもの)	10,172	6.93	9,600	6.39	9,171	5.98
	公務(他に分類されるものを除く)	3,569	2.43	3,674	2.45	3,579	2.33
計	110,076	74.97	106,764	71.07	107,524	70.12	
分類不能の産業		5,877	4.00	10,266	6.83	10,595	6.91
総 計		146,834	100.00	150,214	100.00	153,335	100.00

※ 構成比については、単位未満の端数処理(四捨五入)を行っているため、「計」と内訳の合計は必ずしも一致しない。